

新春ギョーザパーティー



今年の中国人留学生高知大学学友会が主催する新年会(中国)は1月12日(日曜日)に朝倉ふれあいセンターで開催された。高知大学の中国人留学生22名、事務局次長の田村信雄さんをはじめ日中友好協会会員の皆様16名、よさこい国際交流隊の山中先生を含め44人が参加して頂いた。中国人留学生高知大学学友会の新年会を餃子パーティーの形式で行われたのは今年で二年目になる。最初にこの新年会を餃子パーティーの形式で行おうと思ったのは春節の時に餃子を作って食べるのが中国の伝統文化の一つで、日本にいる留学生達に中国にいた時と同じような春節雰囲気を感じてもらうためと日本の多くの方々が実際に餃子

づくりを体験していただければと思ったためであった。来場の皆さんが朝早くから小麦粉とお湯で餃子の皮を作り、小さく切ったキノコと豚肉のミンチと醤油、ゴマ油などの調味料を混ぜて一種の餃子の中身を作った。それから、小さく切ったエビと蕪と炒めた卵と塩などの調味料を混ぜ、もう一種餃子の中身を作った。この後、皆さんが歓談しながら、約600個の餃子を作り、作った餃子を煮て食べた。皆さんが餃子を食べる前にNPO高知県日中友好協会事務局次長の田村さんや中国語会話教室の校長先生の伴さんやよさこい国際交流隊の山中先生にご挨拶を頂きました。挨拶の中で私に最も印象が残ったのは伴さんが言ったNPO高知県日中友好協会が日中の民間交流を大事にしてきたのは例え両国の政府の関係が悪くなっても民間、両国の一般市民が仲良くしていただけるようにしたいからだという言葉である。それこそがNPO高知県日中友好協会が存在する意義なのではないかと私は思う。今回の新年会で高知大学の中国人留学生の皆さんがNPO高知県日中友好協会の皆さんと一緒にとても楽しい時間を過ごしました。皆さんが喜んでくれて本当に良かったです。今後もNPO高知県日中友好協会との連携を強化し、中国の若者たちと日本の民間人との交流を深めていきたいと考えております。

中国人留学生高知大学学友会 会長：尹曉軒

高知工科大学春節パーティー

2020年1月24日(金)午後6時より高知工科大学中国留学生学友会主催の春節パーティーが、工科大・国際交流会館ホールで約50名の参加で開催されました。日中の大学生を中心に諸外国の学生も参加していました。工科大・磯部雅彦学長、NPO高知県日中・植野克彦副会長以下3名の役員など参加しまして国際色に富んだ春節パーティーとなりました。

特にお料理は中国留学生学友会のメンバーが中心となり手作りしたもので、本場中国風の味付けで大変おいしく、一度参加すると毎年来たくなるほどの種類の多さとおいしさには感心します。歌や楽器の演奏、プレゼントもあり、楽

しく“大晦日”の夕べを過ごしました。

高知工科大学、高知大学学生 5 名の中国訪問帰国報告会開催

1月25日（土）午後4時30分よりはりまや橋商店街“ウォーターベース”に於いて、21名参加で帰国報告会が開催されました。主催はNPO高知県日中友好協会、中国留学生や“よさこい国際交流隊”山中千枝子代表、大石宗典議、会員を中心に伴武澄さんの司会で若い大学生の感じたままの中国の姿が語られ、日中友好の大切さや国際交流、国際平和について“春節”の日にふさわしい熱気あふれる報告会となりました。

なお、この訪中は、2019年日中青少年交流年の行事で、中日友好協会受け入れ、（公）日中友好協会派遣の全国200名の訪中団の一員としてNPO高知県日中友好協会が2019年3月（工科大1名）、2019年12月（工科大1名、高知大3名）5名の大学生を派遣したものです。5名の大学生の訪中報告が提出されましたので、2月号の新聞に掲載いたします。是非お読みください。

訪中を終えて考えたこと—今後の自分の在り方について—

1班 高知工科大学 入江 康平

この度、日中友好大学生訪中団の一員として、北京、深圳、広州の三都市を訪問させていただき機会をいただき、NPO高知県日中友好協会、中日友好協会、関係者のみなさまに心から感謝申し上げます。このようなすばらしい事業に参加させていただいたことをとても嬉しく思います。



今回の訪中で私は大きな衝撃を受けた。私が中国に行くのは2度目（過去に黒竜江省ハルビン市を訪問）であったが、先の訪問と比べ、見るものすべてが新鮮で、新たな発見や驚きが多く、とても有意義な一週間となった。中国の文化や歴史を自分の五感を使って感じることはできたのは、私にとって非常に貴重な体験となった。

まず、気持ちの変化について述べたい。私は、訪中する前と後で中国に対する想いが大きく変わった。それは「(以前にも増して)中国が好きになった」と自信を持って言えるからである。前から中国については興味を持っていたが、多少なりとも訪中前に抱いていた悪いイメージが払拭され、中国に対して好感を持つことができた。一部の報道や情報を鵜呑みにすることがいかに愚かなことか、痛感したのが今回の訪中であった。団長をはじめ各代表者による挨拶の中で何度か次の言葉が登場した。それは「百聞は一見に如かず」だ。日本国内だとメディアの影響か、いい印象を持つ人はそう多くない。しかしながら、実際に現地を訪れて、自分の目で見て感じると自然と言葉の意味を理解できた。自分の五感を使って知る大切さに気付かされた。

また今回、国際関係学院、広東外語外貿大学の学生とはディスカッションを中心に交流を行った。私は中国語を話すことはできない。しかし彼らは日本語で議論するレベルにいるのだ。ここで語学の必要性を大いに感じた。語学の能力だけでなく、得ている情報量の差には驚いた。彼らは日本のことをよく知っている。1つの事柄に対して、議論が深く進んでもしっかりと根拠を持った自分の意見を主張する姿には感心した。とくに印象的だったのが日本のメディアに興味を持った学生がおり、そこでは私と議論が深まった。これらのことから中国の学生の真面目さとともに学問に対する姿勢には刺激を受けた。これを踏まえて帰国してからではあるが、私は中国語を習得したいと思い、学習を始めた。また日々の起こっていることが新聞やインターネットで見かけると、その記事をしっかりと読むようになった。これは中

国に限らず国際社会を理解するうえで大切なことであり、自分の成長を感じることができた瞬間であった。

この度の訪中を終えて、将来、私は日本と中国の架け橋になりたいと考える。2019年、今年の日中青少年交流推進年とされ、日中政府間で青少年の相互往来などで一致している。また、現代社会では、内閣総理大臣が「完全に正常な軌道に戻った日中関係を新たな段階へと押し上げていく」と強調したり、スポーツ等の合宿でも日本と中国が合同で行ったり、両国の関係は良い方向に向かっていることが実感できる。科学技術や経済、今の私たちの暮らしには必要不可欠な隣国であり、もっと関係を強化していくべきだと考える。そこで私は、自らができることを探し、より強固な日中関係、そして友好関係を発展させたいと考える。

今回の中国訪問で出会った、日中両学生、訪中団引率者、日中両国の事務方の皆様に改めて心から感謝申し上げ、今後の日中友好の発展を願って、感想文としたい。

大学生訪中団に参加して

高知工科大学 環境理工学群 生命科学専攻 3年 柴崎 友里

私は、昨年の12月20日から24日まで、(公)日中友好協会の大学生訪中団に参加し北京に滞在しました。中国に行くのはこれが初めてで出発前からとても楽しみにしていました。滞在中は朝から晩までさまざまな場所に行きました。

日中交流として最も印象に残っているのが人民大会堂での「中日青少年交流大会」です。テレビでは何度も観てきた人民大会堂にまさか自分が行くことになるとは夢にも思いませんでした。大会中は各国の日中友好のための取り組みや演舞などが行われました。そしてプログラムの最後では私も舞台上に上がり日本人大学生代表として中国の国民的ソング、「朋友」(日本語で友達)を歌いました。

また、今回キャッシュレス決済について多くの発見がありました。あるシェアオフィスに見学した際、キャッシュレス決済の冷蔵ショーケースを発見しました。冷蔵ショーケース自体は日本でもコンビニのドリンク売り場でよく見かけますが、私が見た冷蔵ショーケースはオフィス内の社員しか開けられないようにドアがロックされており、キャッシュレス決済アプリ内で社員が操作することによりロックが解除されます。そして購入者がショーケース内から商品を外に取り出す際に、機械が自動的に商品を認識し、スマホの決済ボタンをタップすることで決済が完了するというとてもハイテクな冷蔵ショーケースでした。キャッシュレスに対する驚きは他にもありました。滞在ホテルの近くにある、おじさんが1人で切り盛りしている屋台でも看板にキャッシュレス決済用のバーコードがありました。ほとんどの客がそのバーコードを読み取って支払っていました。私は中国でキャッシュレスが流行っていることは知っていましたが、その想像以上のシステムを現地で目の当たりにしました。

また、今回の訪中団では日中交流だけではなく日々交流もたくさん行いました。上杉さん、西橋さん、東さんをはじめ、日本全国から集まった学年も学部も異なる大学生と共に今回の訪中を経験しました。訪中団の参加動機は学生によって「中国に留学するから。」「1万円で中国に行けるから」とそれぞれ異なるものの、交流を通してこれからの大学生活を頑張ろうと思えるようなモチベーションをもらいました。出会えてよかったと思えるような学生さんばかりでした。



また、今回の訪中団参加にあたって面接や忘年会での顔合わせなどお力添えをいただいた田村さん、竹内さん、安岡さんを始め NPO 高知県日中友好協会の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

自分の知らない世界

高知大学 人文社会科学部 2 年 西橋美月

今回、私が中国を訪問したのは初めてで、外国に行ったのも初めてでした。中国と日本は古代から多くの面で歴史や文化を共有しており、互いへの影響が非常に大きい国です。そんな中国ですが、日本人が持っている中国に対しての知識やイメージは、メディアなどによる一方的な情報によって作り上げられているところが多く、「実際の中国」とイコールとは言えません。



私が思うに、日本では中国に関して悪いように伝えられることが多く、その悪い印象が独り歩きしているように思います。実際、私も大学生になって中国人の友達ができるまで、中国や中国人に関して、ほとんどマイナスなイメージに支配されていたのが事実です。しかし、私は中国人の友達を持ったこと、そして今回中国を訪問したことで、中国に対して持つ視野がより広くなりました。私はメディアから与えられた限定的な情報による固定化されたイメージを中国に対して持っていました。実際に中国現地を訪れたことによる圧倒的な新しい情報を以って、自分が知っている世界と実際の世界は違っており、安易にこの国はこうだと判断するのは間違っていると気づかされました。「良いところもあれば悪いところもある」ということ、そしてそもそもそれが良いか悪いかを簡単に判断できるものではないと考えられるようになりました。異文化を見る際、このように価値判断をすることなく「この文化はこういう文化なのだ」とありのままに捉えることで、自国の文化と違った文化が存在すること自体を面白く、また興味深く思えるようになりました。日中間の政治的関係は必ずしも良好とは言えないのが事実ですが、何よりもまず、中国人の友達を持ったことで、国も何も関係ないと思えるようになり、国と国との政治的問題と、その国の人々や文化は切り離して考えるべきだと思うようになりました。今回の訪中を通して、自分がある国に偏った印象を持っていると感じたとき、現地の友達を持つこと、そして実際に現地に行くことの重要性を改めて感じました。

また、具体的に他に印象に残っていることとして、北京の名所旧跡を訪れた際の、特に故宮博物院の壮大さには圧倒されました。日本ではまず見られないような広大な敷地に建つ立派なお城、そしてそれを支えるだけの文明や文化が隣国に存在していたということに、驚きを感じました。それは、中国の歴史が古く長いということは知識としては知っていましたが、それを実際に目にして、自分の予想をはるかに上回っていたためです。中国の歴史的遺産を見たことで、自国の文化が古くからどのように中国の文化に影響され、逆に相違している点はどこにあるか、など他国との比較を通して自国の文化を知ることへの興味が芽生えました。

このように、今回の訪中によって、中国への見方を大きく変えることができ、ある国を見るときにステレオタイプ的に判断するのではなく、まずは「本当はどうか」と考える視点を持つことができるようになりました。また、今回の訪中で中国の全てを知った訳ではありません。広大な中国のなかで、2019年に北京という都市の一部を、5日間という短い期間でただけに過ぎません。しかし、このように、自分の知らない世界がまだまだあると知れたことは、自分の中国、そして外国への興味をより一層強いものにしてくれました。

「中国訪問での気づき」

高知大学 土佐さきがけプログラム 国際人材育成コース 2 回生 東 大樹

初日、関西国際空港内のホテルに集合しましたが、知っている人は一人もおらず、緊張しながら話を聞いていたのを覚えています。実際に訪中団に参加した人の話等を聞いていると、本当にこれから中国に行くのだと実感を覚え始めて

いました。事前研修での日々交流を通して、中国に対して抱くそれぞれの希望や期待、印象を交換し合い刺激を受け、この人たちとの訪中は成功に終わると強く感じました。

翌日、ついに中国、北京に着きました。北京はとにかく寒く、高知で生まれ育った自分には体験した事がないほど寒かったです。ただ、気持ちだけは周りのみんなに呼応するように熱くなっていました。想像していた北京はもっと混雑していて、あちらこちらで喧騒が聞こえてくるようなものでしたが、建物も整然としており、空気も街全体も非常に綺麗でした。中国に来て初めて食事をしました。見たことのある中国料理から、見たことのないものまで様々なものがあり、日本人には馴染のない味のものが多かったですが、**醪糟**という料理がお気に入りになりました。これからの中国での数日間の生活が楽しみになる晩餐会でした。

学校交流で現地大学を訪れ、アニメ作画の班に入り交流をしました。日本語を話すことのできる人が数人おり、アニメを通して日本に興味を持ったとのことで、こういった文化交流が日中関係をより良くしていくきっかけになると感じました。



万里の長城が僕にとって最も印象に残る観光地で、一目見たときの迫力が凄く、雄大な景色にとっても感動をしました。そして、人民大会堂で交流会を行いました。一生においてもう経験することはないであろう貴重な経験をすることができ、これから日中関係をより強固なものにし、積極的にコミュニケーションをとっていく契機になったと感じます。

この北京滞在で強く感じたことが一つあります。国際関係において、相手がどこの国の人であるかを意識しながらコミュニケーションをとるべきではないということです。相手とコミュニケーションをとるとき、相手にしているのは人であって国ではありません。この先日中国関係が政治的に悪くなったとしても、訪中で出会った中国の人々との関係は悪化しませんし、これからもきっと続いていきます。言語や慣習、人種が違って、僕たちは良い関係を築いていけるからです。

誰かと出会ったとき、「その国」ではなく「その人」とコミュニケーションをとっていることをこれからも意識しながら、国際人材として世界へ羽ばたきたいと考えています。

国際交流の意義

高知大学 農林海洋科学部 1年 上杉蒼

2019年12月20日から始まった、日本青少年代表団の5日間の訪中に、私は大変運よく参加することができました。中学3年生だった4年半ほど前に、一度中国を訪れたことがあった私は、この5日間で、中国が以前の訪中時よりも発展した姿をたくさん見ることができました。その例を挙げると、レンタル自転車、無人販売機、キャッシュレスの発展、顔認証システム、モバイルバッテリーの貸し出しなど日本にはない魅力的なシステムがたくさんありました。

私が今回の訪中で意識していたこととして、「中国政府からの多くの支援によって、自分たちの訪中が叶った」ということが挙げられます。支援をしてくれていることは、私たちの訪中に投資をしてくれていることでもあります。しかも、中国の学生ではなく、日本の学生に。「きっと、投資するからには中国側に何かしらのメリットがある。できるならば、それに答えたい。」そう考えた私は訪中前、この5日間でその理由を見つけようと心に決めました。そして、実際に

行って見て感じたことは、「近い未来を創っていく私たち大学生が、中日の友好関係を築こうと思うきっかけ、また実際に築いていくことに対する期待値に投資してくれているのではないか。」というものでした。これは、人民大会堂で行われた、日中大学生千人交流大会に参加した時に、特に強く感じました。

そのうえで、私が日本に帰国して考えたことは、「なぜ、友好関係を築くことが大切なのか」ということです。もちろん、喧嘩するよりは仲がいいほうが圧倒的に幸せです。また、誰もが戦争がなくなり平和な世界を願っています。しかし、日本政府も含めた、日中両政府がここまで尽力しているということは、それ以外にもメリットがあるはずだと考えました。そして調べてみると、いくつかのメリットが挙げられました。1つ目に、経済的交流の促進。2つ目に、異文化理解。3つ目に、異文化理解による自国や地元への理解や愛着の促進。この3つが主な日中交流のメリットとして挙げられ、中国政府は経済面をとっても重視し、日本政府は自国への理解促進を重視していることが分かりました。以上の結果からどのように考えるでしょうか。短絡的に「お金重視の中国より、愛のあるように感じる日本がやっぱりいいな。」と考えて、終わってしまっていないのでしょうか。私は、日中交流とは、この考え方や捉え方の差異をどのように考えるのが重要ではないかと思います。経済的な交流を念頭に置き、より明確な目標を持った中国の経済市場は日本を大きく上回っていますし、愛国心に関しては、やはり中国は日本を上回っているように感じます。もちろん、交流の目的に関しては、両国の政府とも、私が知ることのできない考えがあると思います。しかし、「互いを知り、互いをリスペクトし、互いに学びあう。」両国の若者がそのような視点を持って交流していけば、多少、私たちにはどうすることもできない社会の波がきても揺るがない日中の信頼関係が築けるのではないのでしょうか。

最後に、今回の訪中で、私がこのような考えを持つことができたのは、今回が2度目の訪中であり、1度行ったことのある国で新たな学びをしたいと思えたからだだと思います。このような貴重な機会をくれたすべての方々、またこの訪中により出会えたすべての方々、心から感謝申し上げます。



※ホームページアドレスが変わりました!

昨年より運用を開始しました NPO 高知県日中友好協会のホームページですが、このたびアドレスが変更となりましたので、お知らせいたします。ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。新しいアドレスは以下になります：

<http://kochi-nichu.com>